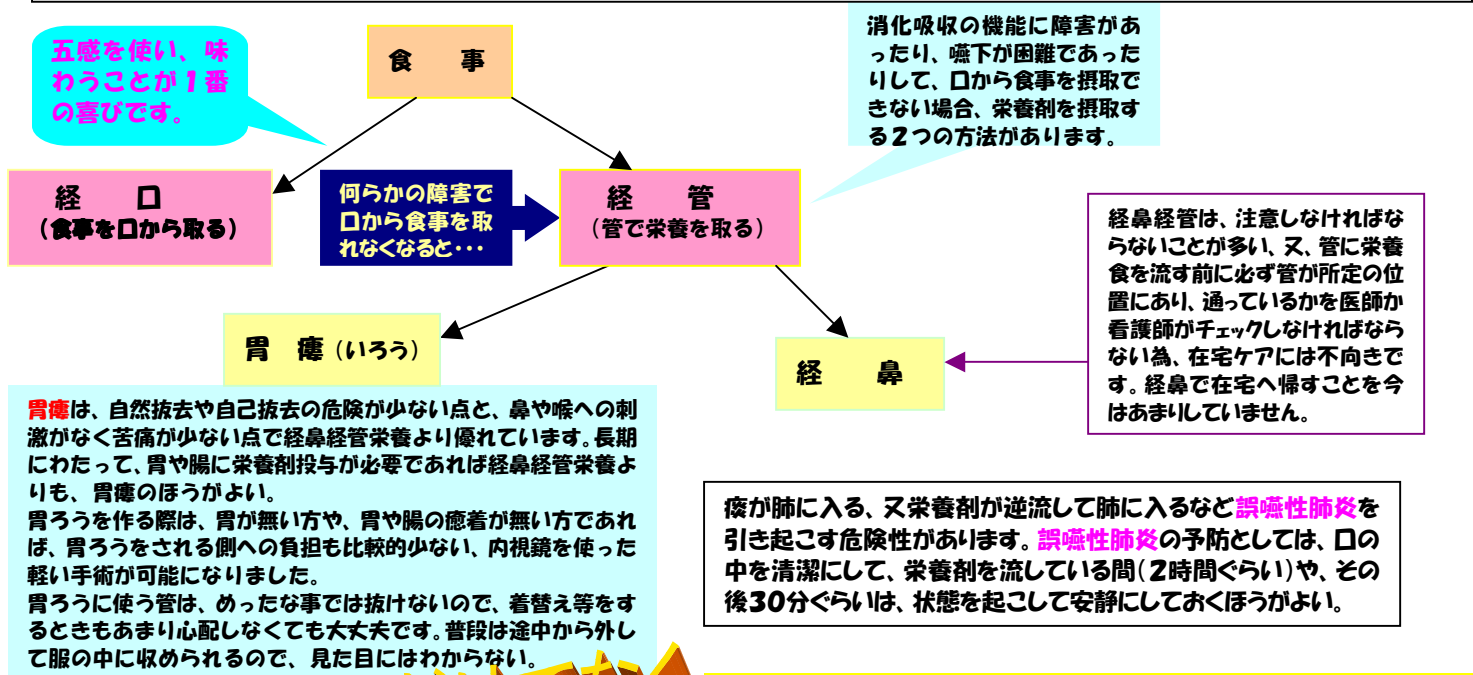


# 経管栄養食について…

何らかの障害や病気で自分の口から食事（栄養）が取れなくなった方が、在宅治療や老人ホームなど、常時、医師が居ないところで生活をする場合にとられる方法が経管栄養法です。経管栄養法には**胃瘻**と**経鼻栄養法**があります。**胃瘻**とは、胃に直接栄養剤を入れる方法で最近急速に普及している栄養法です。又、**経鼻栄養法**は、鼻から胃に栄養剤を入れる方法で、鼻にチューブが入っている違和感や、自分でチューブを引き抜いてしまう自己抜去などトラブルが多く、肺炎になりやすいなど欠点があります。これらの栄養法のことを勉強してみましょう。



本人・家族だけでなく

お二人が、嬉しそうに食べられるのを見ると、私まで嬉しくなります。



藤村 力  
特養 介護職員  
石崎さん担当

入所時は胃瘻処置後、半年が経過していましたが、「食べたい」というご本人の訴えがあり、看護師・栄養士を含め担当者会議を行いました。又済生会病院の理学療法士などの助言を得、食事量と体調の記録を取りながら現在に至ります。現在では、食間に空腹を訴えられることもあり、生活面でも積極性が増し、食事・歩行・排泄を自力で行われています。石崎さんが「おいしい」と喜んでおられる姿に感動して、介護の仕事に就いて励みになりました。続けてよかったと感じると共に、一人でもそういう方が増えて頂けるよう努力していきたいと思います。

お二人のお陰で、担当職員他・介護・看護・その他の職員まで、達成感を感じることが出来、次への意欲を持たないように思います。

初め、医務より食事を口から摂取の可能性<大>と言われた時から、お二人とも発語・感情面においてしっかりされており、成功すると信じておりました。チーフ・主任・担当で済生会病院の理学療法士の方にお話を伺い、より現実味を帯びて現在に至ったのだと思います。これからも、医務との連携、報告・連絡・相談を一層密にして、当初の目標のにぎり寿司を食べて頂きたいと思っています。



多田 千鶴子  
特養 介護職員  
谷川さん担当

職員も胃瘻から経口への成功を心から喜んでいきます。